

自然観察 NOW

NO : 49

野幌森林公園自然情報

発行：2020年8月6日

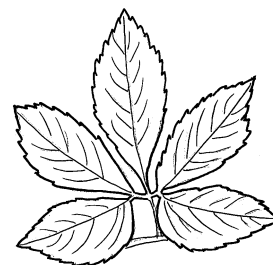
北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



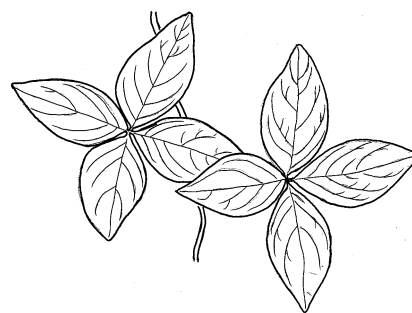
盛夏を迎えた野幌の森は、高木の葉に光をさえぎられて、うす暗くひんやりとしています。そんな林床で、元気に勢力を広げているつる性の植物をじっくり観察してみませんか？つる性の植物には、毎年成長していく木本性の植物と、春に芽吹いて秋には枯れてしまう草本性の植物があります。野幌森林公園(以下野幌)では、木本性が約15種類、草本性が約20種類ほど確認されています。木本性の代表的なものには、ツルアジサイ、イワガラミ、ツタウルシ、ヤマブドウ、サルナシ(コクワ)、マタタビなどがあります。夏の森で、草本性つる植物を見つけましょう♪

アマチャヅル (甘茶蔓)



ウリ科の多年草で、雌雄異株。手のひら状に見える小葉5枚の複葉で、葉の脇から出る細い“巻きひげ”でからみつきます。花は直径5mmと極小で、深く5裂し可愛い星型となります。果実は直径7mmほどの球形で黒く熟し、良く見ると、はち巻きをしたような輪の筋が付いています。生葉をかむと、苦味とかすかな甘味があり、昭和の終わり頃、朝鮮人参と同じ成分を持つと有名になり野幌から姿が消えた伝説があります。

ツルニンジン (蔓人参) ジイソブ

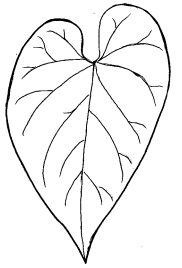


キキョウ科の多年草。茎を切ると白い乳のような汁が沢山出ます。十字型の4枚の葉がつる茎に付き、風船のような花が下向きに付きます。花の袋の先が5つに浅く裂けて外側に反り返り、外は白緑色なのに、内側には紫褐色の斑点があります。種子は五角形の果実の中に、薄い羽をつけて入っています。また、野幌には無いのですが、良く似た花で、花袋の外も内も紫褐色のつる性植物がバアソブ(婆ソブ)です。どちらもアイヌの人たちは根を焼いたり煮たりして食用としていました。

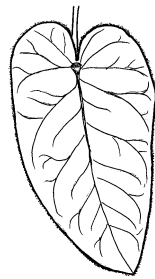
イケマ (生馬・活馬)



キョウチクトウ科の多年草。茎を切ると白乳液が出ます(有毒)。対生する葉はハート型。長い柄の先に白い星型の花が放射状にまとまって付き、果実は10cmほどの長い袋状で、タンポポのような毛のある種子が沢山入っています。根にはアルカロイドという有毒成分があり、家畜や人の薬や食物として利用されてきました。馬の病気に効いた説から、生き馬の字が使われています。別説では、イケマはアイヌ語「それ(神様)の足」の転用とも言われ、アイヌの人達は魔よけとして利用していました。

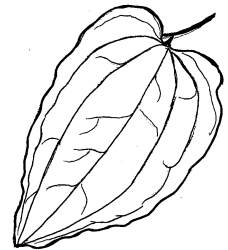


ガガイモ (蘿藦)



キョウチクトウ科の多年草。茎を切ると白乳液が出ます。葉は対生し長いハート型で葉裏は白緑色。花柄の先に10個ほどの淡紫色で内側に毛の密生する星型の花をつけます。果実は表面がでこぼこした大型の紡錘形で、長い絹毛のついた種子が沢山入っています。

シオデ (牛尾菜)



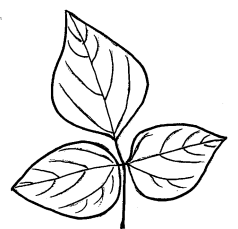
サルトリイバラ科で雌雄異株の多年草。茎はやわらかく葉は互生し5~7葉脈部分が凹みます。葉腋から巻きひげをだしてもものに絡みます。花序は白い花が球形に咲き、果実は黒い直径1cmほどの液果が房になります。

ツルリンドウ (蔓竜胆)



リンドウ科の多年草。茎は地表を他の物にからんで伸びます。葉は対生し三角状の卵形で3脈が目立ちます。花は先が5裂した筒型で、果実は赤紫色の楕円体になり春先まで見ることができます。

ヤブマメ (藪豆)



マメ科の一年草。茎が他のものに絡んで伸びます。花序は蝶形の花が数個ついて豆の入った鞘状の果実ができます。また、地上近くの葉腋から長い柄が地下に伸びて閉鎖花をつけ、結実します。アイヌの人達はエハと呼んで春秋に地中から掘り集め、煮たり豆ご飯にしたり貯蔵用にしました。

写真提供(アマチャヅル花、ツルニンジン花) 自然ふれあい交流館